

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	アイコアルファ棟第10工場新築工事(第	階数	地上2F
建設地	愛知県稲沢市祖父江町	構造	S造
用途地域	工業地域、第1種低層住居専用地域	平均居住人員	30 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	6,300 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年6月 予定	評価の実施日	2014年8月17日
敷地面積	4,981.29 m ²	作成者	中尾尚世
建築面積	2,978.88 m ²	確認日	2014年8月18日
延床面積	3,746.30 m ²	確認者	兼松友文

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 89%
 ③上記+②以外の 89%
 ④上記+ 89%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">2.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td style="text-align: center;">15.8 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td style="text-align: center;">0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	15.8 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	15.8 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料> なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

CASBEE-あいち2011年度追補版Ver.1
アクトルファーム第10工場新築工事(第1期)

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-あいち2011年度追補版
■評価ソフト: CASBEE-Ncb_2011 (bpi&bei)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質								2.8
Q1 室内環境								2.9
1 音環境								
1.1 騒音						3.0	0.15	-
1.1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	-
1.1.2 設備騒音対策						3.0	1.00	3.0
1.2 遮音						3.0	0.40	-
1.2.1 開口部遮音性能						3.0	0.60	3.0
1.2.2 界壁遮音性能						3.0	0.40	3.0
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	3.0
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	3.0
1.3 吸音						3.0	0.20	3.0
2 温熱環境						2.6	0.35	-
2.1 室温制御						3.0	0.50	-
2.1.1 室温						3.0	0.38	3.0
2.1.2 設備変動・過渡制御性						-	-	-
2.1.3 外皮性能						3.0	0.25	3.0
2.1.4 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-
2.1.5 温度・湿度制御						-	-	-
2.1.6 個別制御						-	-	-
2.1.7 時間外空調に対する配慮						-	-	-
2.1.8 監視システム						-	-	-
2.2 湿度制御						1.0	0.20	3.0
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0
3 光・視環境						2.4	0.25	-
3.1 屋光利用						1.8	0.30	-
3.1.1 屋光率						1.0	0.60	3.0
3.1.2 方位別開口						-	-	-
3.1.3 屋光利用設備						3.0	0.40	3.0
3.2 グレア対策						3.0	0.30	-
3.2.1 照度器具のグレア						-	-	-
3.2.2 屋光制御						3.0	1.00	3.0
3.2.3 映り込み対策						-	-	-
3.3 照度						2.0	0.15	3.0
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0
4 空気環境						3.9	0.25	-
4.1 発生源対策						5.0	0.50	-
4.1.1 化学汚染物質				内装材、天井裏等には☆☆☆☆建材以上を使用する。		5.0	1.00	3.0
4.1.2 アスベスト対策						-	-	-
4.1.3 ダム・カビ等						-	-	-
4.1.4 レジオネラ対策						-	-	-
4.2 換気						4.0	0.30	-
4.2.1 換気量				居室はほぼシャクハウス換気の5倍以上の風量を確保		5.0	0.33	3.0
4.2.2 自然換気性能						3.0	0.33	3.0
4.2.3 取り入れ外気への配慮				給排気口の間隔は6m以上を確保		4.0	0.33	3.0
4.2.4 給気計画						-	-	-
4.3 運用管理						1.0	0.20	-
4.3.1 CO ₂ の監視						1.0	1.00	-
4.3.2 喫煙の制御						-	-	-
Q2 サービス性能						-	0.30	-
1 機能性						2.7	0.40	-
1.1 機能性・使いやすさ						2.3	0.40	-
1.1.1 広さ・収納性						3.0	0.33	3.0
1.1.2 高度情報通信設備対応						1.0	0.33	3.0
1.1.3 バリアフリー計画						3.0	0.33	-
1.2 心理性・快適性						2.6	0.30	-
1.2.1 広さ感・景観				天井高2700とし、外壁窓を連窓とし開放的な空間となるよう配慮		4.0	0.33	3.0
1.2.2 リフレッシュスペース						1.0	0.33	-
1.2.3 内装計画						3.0	0.33	-
1.3 維持管理						3.5	0.30	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計				防汚クロス、塩化ビニルタイルなど、水吹き等の掃除のしやすい材料を選定		4.0	0.50	-
1.3.2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-
1.3.3 衛生管理業務						-	-	-
2 耐用性・信頼性						3.3	0.31	-
2.1 耐震・免震						3.0	0.48	-
2.1.1 耐震性						3.0	0.80	-
2.1.2 免震・制振性能						3.0	0.20	-
2.2 部品・部材の耐用年数						3.4	0.33	-
2.2.1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.23	-
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.23	-
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.09	-
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔				屋外露出部はSUS製品を採用(フード、バンドキャップ等)		4.0	0.08	-
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔				給水: VLP、汚水・雑排水: VPを使用		4.0	0.15	-
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔				ダイキン及び三菱電機製品のこれまでの実績より		4.0	0.23	-

2.4 信頼性					3.8	0.19			
1	空調・換気設備		②	落下防止を含めた耐震支持やできる限りの系統の細分化を実施	4.0	0.20			
2	給排水・衛生設備			節水器具の採用、生産設備(切削装置等)への工水の使用	5.0	0.20			
3	電気設備			落下防止を含めた耐震支持や防災設備向けの非常用発電機を設	4.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.7	0.29			3.7
3.1 空間のゆとり					5.0	0.31			
1	階高のゆとり			階高の高さによる	5.0	0.60	3.0		
2	空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.1未満	5.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性					3.2	0.38			
1	空調配管の更新性		②		3.0	0.17			
2	給排水管の更新性				3.0	0.17			
3	電気配線の更新性				3.0	0.11			
4	通信配線の更新性				3.0	0.11			
5	設備機器の更新性				3.0	0.22			
6	バックアップスペース			将来の増設対応や更新時の修繕・保守スペースを適宜確保	4.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.38			2.5
1 生物環境の保全と創出		●	③		2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮		●	④		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30			2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●	④		2.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-			3.5
LR1 エネルギー					-	0.40			3.7
1 建築物の熱負荷抑制				計算書より算定	5.0	0.07			5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	0.27			3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用					3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用					3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化				計算書より算定	4.6	0.40			4.6
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)					4.6				
集合住宅の評価					3.0				
4 効率的運用					3.0	0.27			3.0
4.1 モニタリング					3.0	0.50			
4.2 運用管理体制					3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			3.3
1 水資源保護					3.4	0.15			3.4
1.1 節水				節水器具、擬音装置等を採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減					3.3	0.63			3.3
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.25			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	3.0	0.21			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		●		LIXIL ピアッツァ:1FWC、東リ ロイヤルストーン:2FWC	4.0	0.21			
2.5 持続可能な森林から産出された木材					-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組		●		躯体と仕上材において分別可能な材料を採用	4.0	0.25			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.3	0.22			3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				壁及び床において有害物質を含まない塗料を採用	4.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68			
1 消火剤					-	-			
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.50			
3 冷媒					3.0	0.50			
LR3 敷地外環境					-	0.30			3.3
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率に基づくスコア換算→3.4	3.4	0.33			3.4
2 地域環境への配慮					3.6	0.33			3.6
2.1 大気汚染防止				燃焼器具の取扱一切無し(電気使用機器の採用)	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.5	0.25			
1 雨水排水負荷低減		●			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25			
3 交通負荷抑制		●		配置や形状、台数を充分検討の上確保	5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33			3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1 騒音		●			3.0	0.33			
2 振動		●			3.0	0.33			
3 悪臭					3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40			
1 風害の抑制					3.0	0.70			
2 砂塵の抑制					3.0	-			
3 日照障害の抑制					3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					3.7	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				チェックリストに基づき外へ漏れる光の対策を十分検討実施	4.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30			

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-あいち2011年度追補版Ver.2 (E)

アイカアルファ㈱第10工場新築工事(第1期)

■評価ソフト:

CASBEE-NCb_2011 (bpi&bei) v.1.5_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.11	
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 アイコアルファ(株)第10工場新築

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣接する既存工場と統一感のあるデザインを採用。 ・積極的な省エネ(全体的にLED採用)、節水機器の採用。
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務所エリアの窓にはブラインドを設置することでグレアを制御した。 ・内装材、天井裏等には☆☆☆☆建材以上を使用することで化学汚染物質の発生源対策にこころがけた。
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気室を2Fへ配置することによる「水害」への配慮。 ・保全設備機器の集約化によるメンテナンス性への配慮。
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存工場と色彩をそろえることで周辺環境に調和した外観とした。
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BEI=0.76を達成 (BEI/AC=0.81、BEI/V=0.96、BEI/L=0.35、BEI/HW=2.0) ・BPI=0.64を達成 ※特に照明においては全て「LED」を採用。
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物解体時に分別が容易な構造を採用。 ・内装材にエコマーク商品を積極的に採用し資源の循環に寄与する計画とした。 ・積極的な節水機器の採用、工水の使用。 ・ハロンの使用一切無し。
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃焼機器の使用無し及び排熱機器(室外機等)をできる限り高層部へ配置。 ・光害対策として、外灯等を適切に配置することで敷地外への影響を極力小さくした。
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>